

コミュニティにおけるエイズ予防指針の反映の評価・啓発に関する研究

研究分担者 岩橋 恒太 特定非営利活動法人 akta 理事長

研究要旨

【目的】エイズ予防指針に基づく施策について、コミュニティが主導し、キーポピュレーションへの啓発と施策および普及啓発に関する評価方法を確立することを目的とする。

【方法】令和6年度は、質問紙調査実施のための準備として、以下の研究活動を行った。1) 厚生科学審議会感染症部会エイズ・性感染症に関する小委員会に参考人として参加し、改正の論点の把握、2) MSM コミュニティに向けたエイズ予防指針に関する啓発イベントの実施、3) community-led monitoring (CLM) およびキーポピュレーションへのエイズ施策に関する先行研究の検討、4) CBOs メンバーと意見交換を行い、質問紙の質問項目案の検討と実施方法の検討、5) 国際会議に参加し、海外 CBOs メンバーおよび研究者との各国のキーポピュレーションの施策状況について意見交換を行う。

【結果】厚生労働省での小委員会向け、打ち合わせ会で指針改正案を検討し、加えてトランスジェンダーや薬物使用者・支援者などキーポピュレーションの意見を聴取した。参考人として小委員会に参加し、そこでの議論内容を質問紙調査の設計にも反映。6月23日にはaktaでMSM コミュニティ向けの指針啓発イベントを開催し、指針策定に携わった専門家やCBO関係者が改訂のポイントを議論、66名が参加した。質問紙調査に向けてCLM およびMSMに関する先行研究を分析し、HIV/エイズの意識・行動調査をインターネット調査パネルで実施する方針を決定。6月27日～29日のAPACC（香港）では各国のCBOや研究者とCLM研究の動向および各国のキーポピュレーションの施策状況について意見交換を行った。

【考察・結論】今年度の準備段階を踏まえ、来年度（研究事業の2年目）はキーポピュレーションを対象としたインターネット調査パネルを用いたHIV/エイズの意識・行動・知識に関する比較分析：横断調査を実施する。

研究協力者

Jane Koener キャンベラ大学
井上 洋士 アクセライト
本間 隆之 山梨県立大学

A. 研究目的

エイズ予防指針に基づく施策について、コミュニティが主導し、キーポピュレーションへの啓発と施策および普及啓発に関する評価方法を確立することを目的とする。

B. 研究方法

本研究は3か年計画で進め、令和6年度に質問紙調査実施のための準備を行い、令和7年度に本調査を実施、令和8年度に調査結果を解析し、研究成果をコミュニティや施策へフィードバックする。

初年度（令和6年度）は、質問紙調査実施のための準備として、1) 厚生科学審議会感染症部会エイ

ズ・性感染症に関する小委員会に参考人として参加し、改正の論点の把握、2) MSM コミュニティに向けたエイズ予防指針に関する啓発イベントの実施、3) CLM およびキーポピュレーションへのエイズ施策に関する先行研究の検討、4) CBOs メンバーと意見交換を行い、質問紙の質問項目案の検討と実施方法の検討、5) 国際会議に参加し、海外 CBOs のメンバーおよび研究者との各国のキーポピュレーションの施策状況について意見交換を行う。

（倫理面への配慮）

本研究は「ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則」および「人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理指針」に従い、調査実施に先立ち、令和7年度に研究倫理委員会の承認を取得する予定である。

C. 研究結果

1) 小委員会での指針改正の論点の把握

小委員会に先立ち厚生労働省にて複数回行われた「見直しに向けた打ち合わせ会」にて、特に個別施策層に関する項目について検討を行った。またトランスジェンダーや薬物使用者・支援者などの参考人を会に招き、意見交換を行った。

6月18日に行われた小委員会において報告者は参考人として議論に加わり、打ち合わせ会の討議内容をもとに指針改正案の議論に参加した。またここで議論を踏まえ、質問紙調査の質問項目の検討に役立てた。

2) MSM コミュニティ対象の指針啓発イベント

6月23日に、MSM コミュニティを対象に、エイズ予防指針を解説するトークショーをコミュニティセンター akta(新宿二丁目)にて実施した。

CBO の代表者として最初の指針策定に関わった稲場雅紀氏、指針の改訂プロセスを取材し報道してきた宮田一雄氏を演者とし、またコメンテーターとしてゲイバーのマスターやセックスワーカー支援団体のメンバーを迎え、指針の来歴と改訂に向けたポイントについて議論を行った。

当日は akta での対面およびオンラインのハイブリッド形式で実施し、66 名が参加した。

3) CLM およびキーポピュレーションへのエイズ施策に関する先行研究の検討

質問紙作成のため、CLM およびキーポピュレーション（特に MSM）に関する先行研究を精査した。

後者について、MSM に対する各国の施策比較と評価のため、平成 22 年厚生労働科学研究費補助金「男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果に関する研究」における、「日本と海外の MSM の HIV 感染予防対策関連予算の比較」の研究内容の最新化を試みた。

Pubmed を用いて先行研究の検討 (HIV&MSM&prevention) を行ったところ、近年、国際誌における MSM のコミュニティベースの取り組みや有病率に関する研究の報告は減少傾向にあった（図 1、2）。一方で、MSM を対象とした研究における PrEP の費用対効果や実装に関する研究の割合が増加傾向を示した（図 3）。

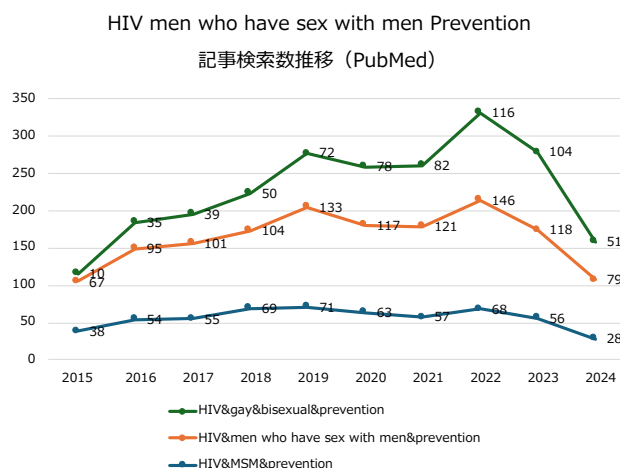


図 1 HIV&MSM&prevention 記事数推移

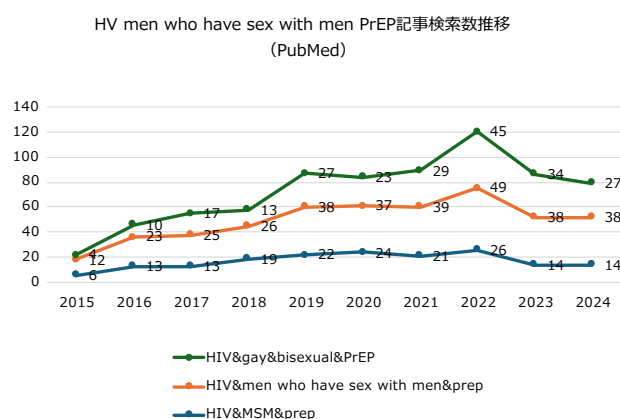


図 2 HIV&MSM&PrEP 記事数推移

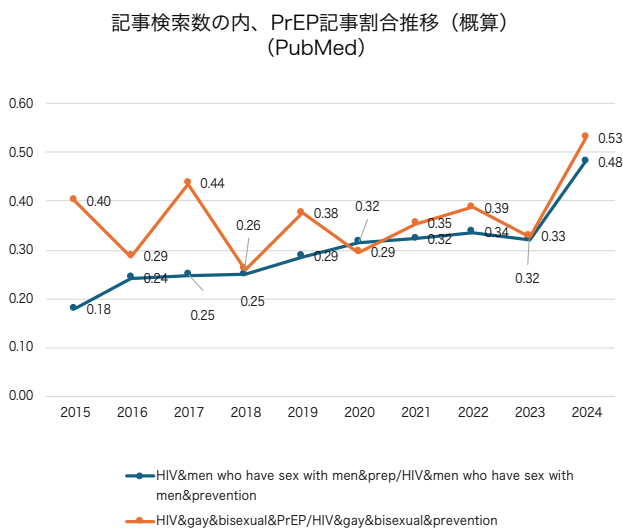


図 3 記事数のうち、PrEP 記事割合推移

4) 質問紙の質問項目案の検討と実施方法の検討

令和7年度に実施する調査の方法について、先行研究の検討およびCBOs等との意見交換を踏まえ、インターネット調査パネルを用いた個別施策層におけるHIV/エイズの意識・行動・知識に関する比較分析を横断調査として実施することとした。

比較分析について、インターネット調査パネルのうち、MSM、トランスジェンダー、セックスワーカー、一般男性、一般女性を層別に検討することとした。なおその他の個別施策層についてリクルートすることが可能かについては、引き続き調査中である。

5) 海外CBOs・研究者との各国のキーポピュレーションの施策状況について意見交換

6月27日から29日まで香港で行われた、Asia Pacific AIDS and Co-Infections Conference(APACC)に参加し、アジア太平洋地域の海外CBOs、研究者とCLM研究の動向および各国のキーポピュレーションの施策状況について意見交換を行った。また、ここでの意見交換の成果として、令和7年度のAPACCの東京開催が決まった。

D. 考察

初年度(令和6年度)は、「次年度に予定される質問紙調査の項目設計、個別施策層への施策に関する基礎資料の作成に加え、コミュニティ向けの予防指針に関する啓発イベントの開催、加えて、国際会議での情報収集を行った。」

インターネット調査パネルを用いた質問紙調査は、次年度秋に実施予定である。キーポピュレーションを対象とした調査となるため、引き続き、CBOメンバーとの意見交換を継続する。また、同研究班および他研究班での質問紙調査の指標を統一するため、協力依頼を進める。

MSMに関する研究論文では、PrEPの実装および費用対効果の研究が主流であり、各国のコミュニティでの取り組みやその評価については、文献のみを通じて十分な情報を得ることが難しい。そのため、各国のコミュニティと直接対話しながら情報を収集する必要があり、実態の把握には対面およびオンラインでの情報交換の重要性が増している。

E. 結論

令和6年度の準備段階を踏まえ、2年目となる次年度、キーポピュレーションを対象としたインターネット調査パネルを用いた個別施策層におけるHIV/エイズの意識・行動・知識に関する比較分析：横断調査を実施する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Hill, Adam O., Noriyo Kaneko, Carl M. Page, Natalie Amos, Kohta Iwahashi, Adam Bourne, and Stuart Gilmour. 2024. "Associations between Social Capital and Self-Rated Health among Men Who Have Sex with Men in Japan." *Healthcare Papers* 12 (10): 997.
2. Mio Kato, Fumi Yoshimatsu, Tomonori Yamamoto, Nozomi Kobayashi, Tadashi Kikuchi, Saori Matsuoka, Tetsuro Matano, Kota Iwahashi, et al. 2023. "Development of a Partnership between Academia, Community, and Government in Response to the 2022 Mpox Outbreak in Japan." *日本公衆衛生雑誌 advpub*: 23-028.
3. Kaneda, Yudai, Rajeev Shrestha, Kota Iwahashi, and Kenzo Takahashi. 2023. "The Rising Threat of Mpox in Japan despite Global Decrease." *Journal of Public Health Policy*, August. <https://doi.org/10.1057/s41271-023-00427-4>.
4. Wang Y, Tanuma J, Li J, Iwahashi K, Peng L, Chen C, Hao Y, Gilmour S. Elimination of HIV Transmission in Japanese MSM with Combination Interventions. *Lancet Reg Health West Pac*. 2022 May 10;23:100467.
5. Kaneko N, Sherriff N, Takaku M, Vera JH, Peralta C, Iwahashi K, Ishida T, Mirandola M. Increasing access to HIV testing for men who have sex with men in Japan using digital vending machine technology. *Int J STD AIDS*. 2022 Jun;33(7):680-686.
6. Kaneko N, Shiono S, Hill AO, Homma T, Iwahashi K, Tateyama M, Ichikawa S. Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan. *AIDS Care*. 2021 Oct;33(10):1270-1277.
7. 岡慎一, 岩橋恒太, 塩尻大輔, 水島大輔. 2024. "座談会 PrEP の現状と将来展望." *HIV 感染症と AIDS の治療 / 「HIV 感染症と AIDS の治療」編集委員会 編* 15 (1): 4-12.
8. 岩橋恒太. 2022. "LGBTQ を理解する：多様な性を視野に入れた看護の実践 (第 5 回) 性的少数者の性の健康維持を支援する取り組み：男性とセックスをする男性の HIV と性感染症予防対策の現場から." *看護技術 = The Japanese Journal of Nursing Arts*: 68 (6): 615-20.
9. 岩橋恒太. MSM のエイズ対策における、コミュニティヘルスワーカーの役割と課題の検討：ヨーロッパにおける大規模調査 ECHOES の紹介から.

日本エイズ学会誌 2021; 23 (3): 107-12.

10. 岩橋恒太. HIV 検査受検者との支援的コミュニケーションにおける, NGO スタッフの役割と実践の検討. 日本エイズ学会誌 2020; 22 (3): 129-35.

2. 学会発表

1. Rickesh Patel, Brent Allan, Garry Brough, Mario Cascio, Erika Castellanos, Antonella Cingolani, Diego García-Morcillo, W. David Hardy, Jing Han, Bruce Richman, Ama Appiah, Dainielle Fox, Mariel Mayer, Suneet Mehta, Shaun Mellors, Vilma Vega, Nneka Nwokolo, Kota Iwahashi, 2024, THE POSITIVE PERSPECTIVES WAVE 3 (PP3) STUDY PROTOCOL: CO-DEVELOPING A PATIENT EXPERIENCE STUDY WITH COMMUNITY TO ASSESS UNMET NEEDS, ENGAGEMENT IN CARE, AND QUALITY OF LIFE IN PEOPLE LIVING WITH HIV. 2024. Asia Pacific AIDS and Co-infections Conference - 9th., Hong Kong.
2. 岩橋恒太. 2024. エイズ予防とコミュニティエンパワメントの重要性: これまでとこれから, 第38回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京.
3. 岩橋恒太. 2024. HIV 流行終結に向けたコミュニティ主導の取り組み, 第38回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京.
4. 岩橋恒太. 2024. コミュニティに向けたU=Uと予防啓発の課題 —コミュニティセンター aktaでの経験から, 第38回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京.
5. 矢島嵩, 柴田恵, 加藤悠二, 宇都宮雄馬, 阿部甚兵, 岩橋恒太. 2024. 実践報告 ;MSM のセクシュアルヘルス向上を図るためのブログ形式情報発信プログラム「HIVmap POST」, 第38回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京.
6. 高久道子, 岩橋恒太, 金子典代, 荒木順, 木南拓也, 高野操, 本間隆之, 生島嗣. 2024. コミュニティセンター akta に郵送検査キットを受け取りに来た外国籍 MSM の検査行動の把握, 第38回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京.
7. 木南拓也, 本間隆之, 藤原孝大, 岩橋恒太. 2024. コミュニティセンター akta における、来場者数についての考察, 第38回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし